

## 豊かな価値の共有を目指して

九州工業大学 学長 尾家 祐二



新年おめでとうございます。

明専会および会員の皆様方には、  
 本学の教育研究活動への格別のご理解並びに多大なるご支援を賜り誠に厚く御礼申し上げます。

著しい技術革新とその社会への浸透が、大きな社会変革の原動力となりつつあります。特に、計算機の処理能力の飛躍的な向上とそれを背景にしたAIおよびビッグデータ活用は、産業分野のみならず我々の社会生活においても大きな変革をもたらしています。社会は、多様な価値を包含しており、それらは時間とともに変化しています。このような状況において、九州工業大学は、未来を

見据えて、大学の社会的価値を高め、新たな価値を創造するために「未来を思考する『モノづくり』と『ひとづくり』」を行って参ります。

学生諸君は、昨年も学生プロジェクトに積極的に応募し、平成29年度は19件が採択になりました。その中でも平成28～29年度安川電機プロジェクトとして採択された『Hibikino Musashi@home』は名古屋で開催された世界大会「RoboCup 2017」において、生活支援ロボットの性能を競うリーグにおいて優勝し、また、『衛星開発プロジェクト』が開発した超小型人工衛星が昨年1月に宇宙空間に放出されるなど大きな成果を残しています。

教育の国際化についても継続して推進しています。平成28年度には500名を超える学生が海外での学習を経験し、平成29年度も引き続き多くの学生が企業インターンシップを含め海外で貴重な経験をしています。ま

た、宇宙工学国際コースのガーナ、モンゴル、バングラデシュ、ナイジェリア、日本の学生が開発した5機の超小型人工衛星が昨年7月に宇宙空間に放出されました。ガーナ、モンゴル、バングラデシュにおいては、初の衛星開発であり、まさに国を挙げて喜んでいただきました。そしてこのような多様なチームによる工学教育が評価されエアバスの Diversity Award を獲得しました。

さらに、今年度、本学の学生を海外の機関の教員と共同で指導する国際協働研究指導支援制度を新たに設け、7件採択しました。

研究分野においては、大学組織レベルで国際共同研究プロジェクトを支援する制度を開始しました。台湾科技大学との間で5件、マレーシアプトラ大学との間で3件を採択し、共同研究が開始されています。11月には、マレーシアにおいて、共同研究のキックオフ会議があり、継続的で豊かな大学間連携が築かれることを期待しています。

今年度、株式会社SUMCO様及びパナソニック株式会社様にご尽力いただき、初めて2つの共同研究講座

を新設することができました。キャンパスがさらに多様化し、新たな相互作用が生じることを期待しています。

本学卒業生とのネットワークも、本学の資産と理解し、海外の研究機関および高専で勤務している卒業生との共同研究を平成28年度から支援しています。昨年度は7件、今年度には13件を採択しました。昨年、モンゴル、ベトナム、マレーシアを訪問した際に、卒業生との懇談の機会を設け、近況を知ることができ大変嬉しく思いました。今後、更にネットワークを広げていきたいと思っています。

また、職員が誇りをもつて働ける職場づくりにも取り組んでいます。このような様々な教育、研究活動を推進し、さらには、産業界、報道機関、自治体との対話の機会を増やし、本学の社会的価値をさらに高めるとともに、学外の多様な組織と豊かな価値を共有していきたいと考えております。

最後になりましたが、皆様方が、多くの良き機会に恵まれ、実り多き年となりますことを祈念いたします。今年もよろしくお願い申し上げます。